



2016 June

No.526

地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理念 135年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心医療

患者の人權と意思を尊重します

患者診療3本柱

がん・救急・予防医療を中心に
医療機能の充実を図ります

完結型医療

地域の医療機関との連携を行い
安心できる医療の展開を行います

社会貢献

災害医療派遣・医療情報公開・医療
ボランティアの活動を行います

医療人育成

医療に携わる喜びが持てる医療人の
育成を行います

住み慣れた地域で安心安全な生活を ～五木村訪問看護の1年～



マイカーでお散歩



訪問看護『いつき』が始まって一年が経ちました。昨年3月から今年の5月末までで延べ72件の訪問を行いました。その間に関わった方は数名でしたが、体調管理、服薬管理、清潔ケアを主に行いました。

初回訪問時は五木在住のスタッフに道順を聞き、初めて行く山道をひたすら走り近くまで行って電話すると「こっち！こっち！」と大声で呼ばれ、ホッとしたものです。他の看護師に道順を説明するために下のように写真を撮り、「公民館から登ってきた道を振り返り右端の家」という方法で説明しました。集落到たどりつくまで誰にも会うことがなく、もし会おうとしたら猿や鹿に遭遇する機会の方が多いい気がします。



患者宅への道中

訪問先では、バイタルサインチェックをしようとしても座布団やお茶を勧められたりで、なかなか訪問の目的が果たせない事も度々でした。しかし、入浴介助

で気持ちよさそうに湯船につかる姿をみると、少しは役に立っているんだなあと感じる瞬間もありました。

高齢化が進み一人暮らしの方も多くこれから薬の管理、検査や治療で村外の病院受診など公的な支援が必要とされる人が増えることは確実ですが、五木村診療所の訪問看護師として最後までその人らしく地域で暮らしていけるようお手伝いできればと思っています。

五木村診療所の待合室では、自分の予約した受診日がいつかをくり返し電話で聞かれる人、薬を誰かに盗られたからと受診日より早めに来られる人、診察にきて財布がないと言って騒ぐ人など、見守りが必要な人が増えてきているように感じます。今までよくお話されていた人が硬い表情に変わっていったり、いつも身綺麗にされていた方が身の周りを気にされなくなるなど、気になることがあれば速慮なくご相談ください。役場の保健師、福祉センターのケアマネージャ、ヘルパーさん達と情報を共有して皆でその人に一番ふさわしい対処法を探し、地域全体で支援していきます。

五木村診療所看護師 今村 久江
五木村診療所 Tel : 0966-37-2008

地域包括ケア ～在宅復帰を目指して～

糖尿病看護認定看護師・フットケア指導士の取り組み

平成25年8月に医療介護総合確保推進法が成立しましたが、この法案は2025年問題に向けて、医療・介護の連携強化を図り、患者の在宅での生活を支援する内容となっています。当院は、熊本県の最南部に位置する人吉盆地にあり、この地域の中核病院として機能していますが、地域の特徴としては、毎年人口が減少しており、少子高齢化が継続している状態で、今後も高齢者が増えると予測されます。したがって、これまで転院や施設入所をすすめてきましたが、今後は在宅復帰を目標としていかななくてはなりません。しかし、患者の在宅復帰を困難にする因子として、第一に認知症、第二に脳血管疾患があり、そのほかに何らかの原因で、手足が不自由となり、日常生活が一人で送れない状態が考えられます。そのため、これらの認知症や、大血管障害の原因となる糖尿病予防と、現在治療中患者の合併症予防に努めることが重要であると考えます。加えて、高齢者は加齢に伴い、骨・

筋肉系、神経系、皮膚・血管系に変化を生じるため、足病変リスクの一つとなっていますが、糖尿病神経障害も、知覚低下や足趾の変形を起こし、糖尿病足病変の誘因となります。そのうえ、糖尿病足病変は、潰瘍や壊疽により切断に至る場合もあり、足切断による生活への支障から、QOLの低下にもつながる可能性があります。ゆえに、地域の現状、今後の政府の取り組みに向けて、当院でもフットケア外来開設に向けて、糖尿病代謝内分泌内科・血管外科・循環器科・整形外科医師と協力し、8月を目標に準備を進めています。そして、足病変予防に努めると共に、足病変患者の大切断を回避し、救肢に向けた治療・看護に取り組むため、当院だけでなく、近隣地域の医療機関スタッフへの研修会も予定しています。

糖尿病看護認定看護師・フットケア指導士
根笹 真由美



プロフェッショナル ～チームで支えるがん治療～ vol.1

当院ではがん治療をされている患者さんが安心して治療を受けて頂けるように、様々な取り組みを行っています。今回は栄養管理室の取り組みを紹介いたします。

「化学療法と食事のくふう」

化学療法はがん細胞を攻撃するとともに、その他の正常な細胞にも影響を与えてしまいます。そうすると身体は栄養を必要とし、体力も消耗します。そのため化学療法を行うときには栄養を十分にとり体力を維持することが大切なのです。

食事に影響を及ぼす抗がん剤の副作用としては悪心・嘔吐、味覚障害、口内炎、下痢、便秘、白血球減少、末梢神経障害などがあります。また、副作用による食欲不振は60～85%と化学療法を行っている患者さんの多くにみられるとされています。

当院では今年からそのような症状を認める外来通院中の患者さんに対し、化学療法室にて管理栄養士が食事内容の聞き取りを行い、摂取栄養量や栄養バランスの説明・食形態や調理法の工夫点・食べられなくなったときの対応方法などについて指導しています。ご希望される方は医師もしくは看護師へご相談ください。

また、現在食事に関するアンケートを行っており、副作用による味覚や嗅覚の変化・料理や味付けの嗜好などを参考にし、今後は副作用出現時でも摂取しやすい食種を設け入院患者さんへ提供していきたいと考えております。治療のあいまにお声かけさせていただく場合がございますので、ご協力をお願いいたします。



栄養管理室 管理栄養士 北岡 志織

七夕に 願いを

七夕の日に向けて、本館棟2階総合案内前に七夕の笹飾りを設置しました。

笹には「地震がなくなりますように」や「おじいちゃんの病気がよくなりますように」など短冊をかけていただいております。

ご来院される方々、設置してあります短冊に願いを込めてみてはいかがでしょうか。



地域医療研修 ～ in 与論島～

与論島に着いた時の第一印象はとにかく海がきれいだったということでした。見渡す限りに透き通った海とサンゴ礁に囲まれたその島は空の色とも違う、なんとも言えないコバルトブルーに輝いていました。

島の一番の繁華街から少しだけ離れたところにと与論徳洲会病院はあります。病院内を軽く案内され、カルテの説明を受けた後、勤務初日から外来を任されることになりました。この病院の常勤の医師は外科の院長が一人いるだけ。あとは卒後3年目の後期研修医が一人と4月に研修2年目となった研修医が三人だけで病院を回さなければなりません。簡単に一日のスケジュールを説明すると、朝の7時半から研修医だけ集まってカンファレンス、8時15分からの朝礼のあと病棟回診、9時から12時まで外来、昼食を終えたあと入院患者の対応をして、16時から18時まで外来を行うという流れです。当直は週に2回ほどで、研修医一人で対応しなければなりません。外来にて診断、入院、治療、退院までの流れ全部を、もちろん相談はできますが、基本的に自分一人で行います。朝のカンファでは研修医同士がこれまで培ってきた経験や知識を振り絞って、ああでもない、こうでも



筆者：左端

ないと言い合って症例を検討していきます。病院内には手術室も設備されており、研修中3回の手術を経験しました。2回は助手として、1回は麻酔科として手伝わせて頂くことができました。2カ月間自分の力で診療してきて、これまでの経験と知識を生かす場となったと同時に、自らの力不足を痛烈に感じる場となりました。また、患者さんや患者家族からトートガナシ（与論の方言で「ありがとう」）と感謝されるたびに医師としてのやりがいと責任の重さを再確認させられました。

今後は今回の研修で学んだことを生かし、今まで以上に勉強して医師としての自分を高めていこうと思いました。2カ月間院外で研修させていただき、本当にありがとうございました。

熊本大学医学部附属病院 協力型臨床研修医 木村 俊貴

ふれあいの記

～院内レクリエーションの記録～

院内レクリエーションが誕生して、今年で11年を迎えました。この長きの年月、患者様との交流の中で、“心”は言葉を通して育つものだ実感致しました。

た。記憶の中で、ご入院中の患者様の苦痛を目にしながら、それでもレクリエーションにいらっしゃるお姿に感動さえ抱きました。月日の流れとともに、その方の治療がある程度進んで、患者様ご自身の精神的視野が広がり、心からのごちなさが消えてくると、言動にもみずみずしさが戻り、気持ちにゆとりが生じて、自然の流れのように病という不幸のリズムを脱し、日々元気を快復していくように映ります。それと重なるようにその背後でのドクターはじめ看護の皆様の献身的な輝かしいお姿に、深い感謝の念を抱きました。

昨年度に引き続き、平成27年4月から平成28年3月までの1年間のレクリエーションの記録【ふれあいの記】と写真集【ふれあいの日】をそれぞれ1冊の本としてまとめました。

新年度も、患者様に寄り添いながら、笑顔が幸せをはこんでくるような、心が喜ぶ明るい言葉をくちずさんでいきましょう。

ボランティア 梶原 章子



ボランティア紹介

この度、新たに5月からボランティアスタッフが加わりましたので、ご紹介致します。現在、受付やがんサロンの補助等を行っています。



廣田と申します。約60年ぶりの人吉です。子供の頃のイメージで市内を歩き回っておりますが、つい面白そうな路地、景色に足を踏み入れ、「私はどこに居るのかな」と周囲を見回している毎日です。

ボランティアは初めての経験です。先輩諸兄・姉のモノマネで何とかスタートしておりますが、右往左往している状況です。ご指導・ご叱責をいただけたらと存じます。

ボランティア 廣田 三郎

花壇（地域協力会園芸部）紹介

病院の第2駐車場側から入ると、花壇に色とりどりの綺麗な花が咲いています。

これは地域協力会の方々が毎シーズン花の入れ替えを行い、夕方や朝早く水をやったり草をとったり手入れをして頂いているものです。

見事な花壇に、来院する方ももちろんですが、私たちスタッフも心なをませていただいています。



研修医挨拶

済生会熊本病院から協力型として3ヶ月お世話になります、研修医2年目の中野愛子と申します。眼科・小児科・産婦人科および救急外来で主に研修させていただきます。研修が始まり早くも1週間、優しく頼もしい同期に恵まれ、優秀な先生方や温かいスタッフの方々に学び助けられ、お陰様で日々充実した研修を送らせていただいております。

人吉に来て一番感じたのは、皆さんの心の温かさです。患者さんへの優しい対応や声掛けが素晴らしく、このような日々の密なコミュニケーションや傾聴が、長年の信頼関係を育み、結果的に医療安全や患者さんの満足度にも繋がっているのだと実感しました。

私もかつて父が癌でお世話になり、家族側として救われた経験から、少しでも患者さん・ご家族の気持ちに寄り添えたら…と医師を志しました。新人でついバタバタしがちですが、人吉で心の通った医療に触れて、初心を改めて思い出し、皆さんのようにホスピタリティ溢れる医療人でありたいと思いました。

3ヶ月という短い期間ではありますが、人吉で出会う方々とのご縁を大切に、そして感謝の心を忘れずに、少しでも成長できるように頑張っていきたいと思っています。(癒しの温泉と美味しいごはん屋さんの開拓も楽しみにしております！) どうぞ宜しくお願いいたします。

熊本大学医学部附属病院 協力型臨床研修医
中野 愛子



特別臨床実習（産婦人科・地域医療）



今回、産婦人科の実習の一環で、人吉医療センターに3日間お世話になりました。実習内容は大きく分けて、外来と手術見学の2つで、外来では主に妊婦健診と赤ちゃんの1ヶ月健診を見学させていただきました。妊娠から分娩、出生後までずっと経過をみている方が多く、医師と住民の間でとても密な関係がつけられていると感じました。先生だけでなく看護師、助産師の方々には、問診や検査や治療、お母さんと赤ちゃんへの接し方など幅広く教えていただき、とても勉強になりました。

また、人吉医療センターでは、飲み会やイベントなど、

職業の垣根を越えて交流しており、職場の雰囲気の良いが伝わりました。それと同時に、職業の中でのつながりと、職業を越えたつながりとの両方が大事だと感じました。

人吉は温泉、人吉城、球磨川など観光スポットもあり、また食事処も多く、あらゆる面で楽しめる場所だと思います。正直3日間だけでは物足りず、温泉に入れなかったのは大変悔やまれます…人吉の住民の方の人柄もよく、住む場所としても、研修先としても恵まれた場所だと思います。有意義な3日間をありがとうございました。また機会がありましたら、よろしく願い致します。

熊本大学医学部医学科6年 井邊 有紀



6月6～10日の5日間、人吉医療センターで実習させていただきました。地域の拠点病院の役割や地域包括医療の実際、大学病院との違いなど、普段の大学病院での実習では分からないことを多く学ぶことができ、とても有意義な実習になりました。人吉医療センターがカバーする医療圏は熊本、宮崎、鹿児島にまたがり広大であることや、PET-CTなど医療設備がとても充実しており高い水準の医療が提供されているということを知り、驚きました。病院内では、職員の方々がお互いに明るくあいさつをされており、また患者さんやそのご家族にもこやかに接されているのがとても印象的でした。

手術室では急性虫垂炎や下肢静脈瘤、乳癌などの手術を

見学しました。下肢静脈瘤のストリッピング手術がとても印象的で、手術によって患者さんの症状を劇的に改善させることができる外科の魅力を再認識しました。外科の先生方は学生の自分に対してもとても気さくに接してくださり、外科医として必要な知識や手技などを丁寧に教えていただきました。自分は将来外科に進もうと思っているのですが、医学的なことだけでなく私生活やキャリアの話など、普段なかなか聞けないことにも答えていただき、より一層外科医になりたいという思いが強まりました。

先生方には毎晩食事に連れて行っていただき、また温泉でゆっくり過ごすことができ本当に至れり尽くせりな5日間でした。ありがとうございました。

熊本大学医学部医学科6年 宇都宮 貴史



本を寄贈頂きました！

下田伸子様より、本を4冊寄贈頂きました。

2階 患者図書室もちの樹に配架させていただきます、ありがとうございました。



部署紹介

リハビリテーションセンター

リハビリテーションセンターは4月より3名の増員をして、言語聴覚士 2名 作業療法士 4名 理学療法士 13名で 救急医療・整形外科疾患・がん・脳卒中・心筋梗塞・心不全を中心とした急性期医療の分野を担い、地域の医療機関や行政と連携する事で、地域包括ケアの推進を担っています。平成27年度は患者数20885名、延べ件数27012件 総単位数34197単位でした。また緩和ケア病棟患者へのリハビリテーション提供を年間906件実施しています。正月やゴールデンウィークなど長期の休日への出勤や土曜日出勤でリハビリテーションが滞りなく進むように取り組んでいます。

昨年より療法士の疾患別担当制に変更することにし

て、カンファレンスや回診に参加して、医師・看護師・MSWなど病棟スタッフとのかかわりを充実させ、より良いリハビリテーションの提供ができるようになっています。

人吉お城まつりなどのイベントにも作業療法士協会・理学療法士協会を通じて地域のリハビリテーションスタッフと共同して参加し、地域へのリハビリテーション啓発活動や体力測定をすることにより、転倒予防や認知症予防などへの取り組みも行っています。

リハビリテーションセンター 理学療法技師長 塚島 靖博



救命士就業前実習を終えて

5月9日から6月3日まで、救急救命士就業前実習のため、人吉医療センターにお世話になりました。実習にあたり、病態把握と観察・現場で必要な手技力の習得を目標として実習に臨みました。その中でも、患者さんに対するフィジカルアセスメント力の向上、静脈路確保については、実際に患者さんの身体に触れ、血管の感触、穿刺時の感覚をつかむことに重点を置き取り組みました。また、毎日の目標を「P D C A サイクル」に沿って実施する事により、失敗してもなぜそうなったのかを理解し反省し、次に活かす事により日々上達する事を実感出来ました。毎日の振り返りの際には、教育担当看護師だけでなく、医師・研修医の方も参加して頂き、貴重な意見、質問に対しても丁寧に回答して頂きありがとうございました。

今回の実習では救急外来だけでなく、検査室・ICU・オペ室・小児外来・中央材料室と様々な部署を見学させて頂き、病院内では様々な職種の方々が連携を取りながら業務をされている事も知りました。業務多忙な中、各科の先生方、看護師の方々ははじめ、医療スタッフの方々には、熱心なご指導を頂き、深く感謝申し上げます。今回の病院実習を通して沢山の事を学び、今後の救急現場活動に生かしていきたいです。

人吉下球磨消防組合 救急課 小川 拓郎

クールビズ



当院は、地球温暖化、節電対策のため「スーパークールビズ」を採用し、下記の期間は職員のワークスタイルは軽装化としておりますので、ご理解の程宜しくお願い致します。

期間：6月1日(水)～9月30日(金)

同好会紹介

キャンプ同好会



キャンプ同好会は今年3月に発会したばかりで初心者が多くを占めます。去年から放射線部の吉松さん、前田さん、外科外来の松田さんらとコツコツ話し合いを続けてきました。「外遊びを通じてリフレッシュし、次への活力の動機づけになれば」を合言葉に活動、計画しています。第一回は湯前の湯楽里にあるキャンプ場に1泊2日で行きました。3月という極寒キャンプでしたが、焚き火をして、BBQやカレーライス、豚汁など身も心も温まるものを食べながら、メンバーと談話。今回は家族のグループキャンプで子供もたくさん来しました。家族同士、子供たち同士寒かったけど思い出に残るキャンプでした。

このキャンプ同好会は、家族での参加も単身での参加も大歓迎です。テントや寝袋を持ってなくても大丈夫ですよ。

「へー、こんな同好会があるんだー」っと思われたあなた！まず参加してみませんか。メンバー一同よろこんでお待ちしております。声をお掛けください。一度参加したら、きっとあなたはキャンプの虜になります。

化学療法室 矢立 雅章

天使の ちえぶくろ

6月8日(水)善隣保育園において保育士さんに向けた天使のちえぶくろ(小児科 出前講座)を開催しました。受講された方の感想を頂きましたので、以下に掲載させていただきます。

出前講座の依頼は随時受け付けております。

お問い合わせ：地域連携室 Tel：0966-22-2191 (内線：240)

- ・症状によって適切に対応しなければならないが、不安もある。知識をしっかりと頭に入れておかなければならないと思った。
- ・普段、中々医師・看護師さんの話を聞く機会がないので、今回細かく指導・お話いただきとてもよかった。
- ・熱性けいれんやてんかん等、実際園内で目にすることがあるが、慌ててしまうので、園内では私たち保育士が冷静に対応し、落ち着いて接する事が大事だと改めて考えさせられた。
- ・発熱・痙攣の原因・メカニズムを知ることができた。
- ・水の事故の対応やAEDの使い方は繰り返し学習し、緊急時に備えたいと思った。
- ・忘れていたり、曖昧になっていた点を再確認でき良かった。
- ・AEDの使い方は2回目だったので少しは頭に記憶されたと思うが、いざAEDを使用しなければならなくなったら使用できるか心配もある。



小児科 古家先生によるAED講習風景

- ・AEDも数年前のものと現在のものとで少し機械自体に変化が見られていたので園にあるAEDも毎年一度は開けてみて確認しなければと思う。
- ・何度か救急救命法を学んでいるが、遭遇することなく日々が過ぎていくのでしっかり覚えておきたい。

T-SPOT講習会開催

今回、感染対策委員会によるT-SPOT講習会が開催されました。私も参加させて頂き、院内感染に対する理解を深めると同時に、医療従事者としてとるべき対策・予防方法についても学ぶことができました。最近コマーシャルでも結核感染についてよく耳にし、気に止めていましたが、この講習を通じて人吉・球磨地域の結核感染の現状も知ることができ、より身近なものに感じ少し恐怖を覚えました。私は4月に初めての職員検診でT-SPOT検査を受けましたがこの検査も個人の感染の有無を知るための人吉医療センターの感染対策の1つであったことを初めて知りまし

た。今後も自分のT-SPOT検査の結果を気にかけて、医療従事者としてこのような講習会に積極的に参加し更なる理解を深め、実践していきたいです。



※T-スポット®・TBは、インターフェロン γ (IFN- γ)遊離検査(interferon- γ release assay:IGRA)のひとつで、末梢血を結核菌特異抗原で刺激し、IFN- γ を産生する細胞数(スポット数)をELISPOT法により測定する方法です。

IGRAは、BCG接種の影響を受けずに結核感染を判定する検査であり、日本のようにBCG接種率の高い国において結核スクリーニング法として有用であるといわれています。

臨床検査部 坂本 純輝

6月の勉強会報告

6月9日(木)第81回 人吉乳腺カンファレンス

「乳腺細胞診における診断困難な病変」

人吉医療センター 臨床検査部 浦川 将一
臨床検査技師

「遠隔転移を有する乳癌に対し、症状コントロール目的で乳房切除を施行した一例」

人吉医療センター 外科 西村 卓祐先生

6月21日(火)大腸癌Expert Meeting

「当院における大腸癌腹腔鏡下手術の現状」

当院 外科 田中 秀幸先生

「Evidenceを考慮した進行再発大腸癌の治療戦略」

関西労災病院 下部消化器外科部長 加藤 健志先生

6月のフレッシュマンセミナー報告

6/2 木場 明 「サザエさんについて」

6/23 福園 亮平 「まぐろの館について」

6/30 上村 靖彦 「筋トレについて」

福岡 由香 「東京ディズニーリゾートについて」